

ずいそう

風に吹かれて

相良 拓



昭和62年、北イエメン国でホデダ港200m岸壁の新設と航路浚渫工事を韓国の現代建設とのJVで施工していました。当社は航路浚渫を担当し、日本人はポンプ式浚渫船の乗組員9人と現場事務所職員4人の13人で一軒の家を借り上げ合宿のような生活をしていました。楽しみは、日本からのビデオ（検閲のため、日本から送ったと連絡があってから1、2ヶ月たち、忘れた頃受け取ることができた）とロンドン経由で1週間遅れで送られてくるスポーツ新聞でした。

ある日この新聞の「ソウルオリンピック有力選手」というコーナーに「ヨット女子470級野上敬子（東亜建設工業所属）」という記事を見つけました。これはひょっとしたら我が社のことかなと思いましたが、会社とヨット、オリンピックが結びつかず、同名の他社のことだろうと思っていました。

それから10日ぐらいたった頃、会社からソウルオリンピックキャンペーン中の野上敬子、斎藤愛子に対してカンパの案内が来ました。「新聞記事の東亜建設は我々の会社のことだ、あの新聞記事はどこにやった」と皆で大騒ぎをして、新聞を探しだし、食い入るように記事を見直しました。遠く離れた海外にいて、「日本という国」を意識することは時々ありましたが、「会社というもの」を意識したのは初めてでした。自分達がオリンピックにでるわけでないのですが、何か誇らしく、手持ちの現地通貨（給与は日本円と現地通貨の二本立てで支給されていた）のほとんどをカンパしたことがありました。

平成元年イエメンから帰国後、野上、斎藤ペアのソウルオリンピック出場にあわせ創部されたヨット部に入りました。ヨット部の所有艇は32.5ftのクルーザーで、三浦半島三崎のシーボニアマリーナに係船されていました。

当時の活動は月に1回のレース参加と、5月の連休と8月の盆休みに行く2、3泊のクルージングでした。

5月の連休、初めてのクルージングは2泊3日で伊東、下田の温泉巡りに行きました。

朝、10時にシーボニアに集合し、伊東（方位245度、距離26マイル）を目指し、メンバー8人で出航

しました。天気は快晴、風は5~6m/sで最高のセーリング日和でした。途中、相模湾中央部では十数頭のイルカの伴走もあり、セーリングを満喫していました。

初島に近づいた頃から風が西に変わり（風に向かう方向に帆走することになり、スピードが落ちる）、風速も10m/sを超えるようになりました。スプレーを浴びながら、伊東沖に着いたときは、7時を過ぎ暗くなってきました。海図を見て、伊東港東防波堤の灯台 IsoG 4 s（4秒間隔2秒の緑光）を見つけそれに向かってアプローチしていましたが、第1防波堤の灯台 FIG 3 S（3秒間隔緑せん光）が見えてきません。その時突然東防波堤の緑光が赤になりました。「エエー」海に向いている信号機を灯台と間違えたのでした。

再度舟を沖に出し、灯台背後の陸灯りが少ない北側から港へアプローチし、無事入港。初めてのロングセーリングに疲れ、温泉にも行かずビールとカップラーメンを食べて、ボタンキュー。

2日目は前日の反省から、朝7時に出航し下田港を目指しました。快晴でしたが、風が無く機走。伊豆半島に沿って南下しました。盆休みで大渋滞の国道135号線を見ながら、川奈、熱川、稲取を過ぎ、昼には下田港に入りました。係船後温泉（銭湯）、ビール、刺身と優雅な午後となりました。

3日目は朝7時出航、シーボニアまで、40度、45マイル。昨日に引き続き快晴、南風2~3m/s、機帆走（セールとエンジンで走る）で三浦半島を目指す。

そのうち、風が全くなり、セールを降ろし、機走となる。デッキに日よけはなく蒸し焼き状態。そのまま最後まで機走でシーボニアに午後3時着。初めてのクルージング無事終了。ビールで乾杯。

現在、当社のヨット部は来年のアテネオリンピックを目指す女子470級井嶋、生田選手、斎藤コーチ、今年8月オランダのJ24世界選手権へ行く野上選手率いる橙青チームと32.5ftのクルーザー、それぞれが三様のセーリングを楽しんでいます。